

はすみ新聞（第1号）の発刊

【関係人口の発掘と相談体制構築】

1.主旨

- 人口流出が続いた羽須美地域の新たな支え手として、出身者との繋がりを再構築する。
- 居住者と出身者へ、地域の動き、行事予定、ボランティア募集等を掲載した『はすみ新聞』を発行。

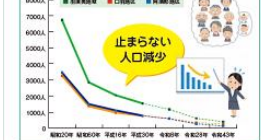
2.実施内容

- はすみ新聞を、年2回発行する。
- 8月の「はすみ会議」開催にあたり、

邑南町は羽須美地域で「小さな拠点づくり」を始めます！

邑南町は令和2年度から6年度までの5年間、農林業のモデル事業の採択を受けて、羽須美地域(口羽、羽須美町地区)を対象に、「小さな拠点づくり」活動の先駆けとして実施していることになりました。

羽須美地域の現状



このままでは... 今後も続く人口減少に加え、口羽と羽須美が協力... これからも住み続けられる地域を目指して「小さな拠点づくり」を進めます！

「小さな拠点づくり」とは何でしょうか？

小さな拠点づくりとは、人口が減少した地域でも高齢者を支えるために「生活機能」を確保していく取り組みです。「生活機能」というのは、地域内で買い物ができる、郵便局などの金融機関やコンビニエンスストアが利用できること、高齢者でも参加しやすい行事やサービスなど、住民が生活するために必要なサービスのことです。今回の事業は、農産物の「小さな拠点づくり」モデル地区推進事業の採択により、邑南町は羽須美地域を対象に実施しました。県内では7町村の1つであり、邑南町など3町村が採択されました。

なぜ羽須美地域が対象になったのですか？

町内の他の地域に比べ人口減少が早く、生活機能が著しく低下している羽須美地域で生活機能を確保するための取り組みに採択することになりました。地区ごとの状況を踏まえたところ、地区(公民館単位)で2000人の人口があれば、必要な生活機能は確保される一方、それを下回ると難しい状況になるとされています。県のモデル事業は、人口減少傾向の多い人口が2000人未満の地区が連携して生活機能の確保に取り組む羽須美地域が採択されました。



住民向け事業説明広報(はすみ新聞0号扱)発刊。全戸配布。

- 11月17日(火)、第1号(創刊号)の発刊。
- 地域行事、自然、歴史、地域で頑張る人の紹介など、多彩な紙面。3,000部を印刷・配布。



○発行元：NPOはすみ振興会

3.今後の予定

- 出身者との繋がりを続けるため、新聞をお届けした方の、会員登録などを検討。

○発行元：邑南町羽須美支所